

第21回 三保連合同 シンポジウム

内科系学会社会保険連合(担当)
外科系学会社会保険委員会連合
看護系学会等社会保険連合

総合テーマ

これからの医療
～AI、手術ロボット、遠隔医療～

日時

2021年
10月13日 水 18:00-20:00

会場：聖路加国際大学
アリス・C・セントジョン メモリアルホール
参加費：無料

※ 事前受付はございませんので、当日多数の方のご来場をお待ちしております。

問い合わせ先：

〒113-8433 東京都文京区本郷3丁目28番8号 日内会館
一般社団法人日本内科学会内
一般社団法人内科系学会社会保険連合
TEL:03-3813-5991 FAX:03-3818-1558 E-mail:info@naihoren.jp



第 21 回 三保連合同シンポジウム

内科系学会社会保険連合・外科系学会社会保険委員会連合・

看護系学会等社会保険連合

総合テーマ これからの医療～AI、手術ロボット、遠隔医療～

日 時：2021年10月13日（水）18：00～20：00

会 場：聖路加国際大学

アリス・C・セントジョン メモリアルホール

【 プログラム 】

1. 開会の挨拶

蝶名林 直彦（内保連副理事長 渉外担当理事）

2. 講 演

① 内保連から

平澤 俊明（がん研究会有明病院 上部消化管内科 副部長）

② 内保連から

佐々木 毅（東京大学大学院医学系研究科 次世代病情報連携学講座 特任教授）

③ 看保連から

真田 弘美（東京大学大学院

医学系研究科 健康科学・看護学専攻 老年看護学/創傷看護学 教授

医学系研究科附属グローバルナーシングリサーチセンター センター長）

④ 外保連から

瀬戸 泰之（東京大学大学院医学系研究科 消化管外科学 教授）

3. 総合討論

司会：小林 弘祐（内保連理事長）

岩中 督（外保連会長）

山田 雅子（看保連代表理事）

4. 閉会の挨拶

小林 弘祐（内保連理事長）

抄 録

AIによる医療の変革

平澤 俊明（がん研究会有明病院 上部消化管内科 副部長）

近年、人工知能（AI）、IoT、ロボティクス、ビッグデータの技術革新により、第4次産業革命の時代に突入した。これからは、私たちのライフスタイルは大きく変わり、歴史的な転換期を迎える。医療現場も例外ではなく、AIやIoTを用いた放射線画像診断、病理診断、ウェアラブル機器による健康管理など多岐にわたり新しい技術が導入され、まさにパラダイムシフトが起きようとしている。がん研有明病院では、AIを用いた内視鏡診断の研究を行い、胃癌検出の感度に関しては、AIが内視鏡医を大きく上回った。しかし、研究から臨床導入までには薬事承認という大きなハードルが存在する。革新的技術であるがゆえに、これまでとは違う倫理的、社会的、法的問題にも直面するようになった。

解決しなくてはならない問題も多いが、AIは医療をよりよくするツールとして、臨床現場で当たり前のように使われる日もそう遠くはないであろう。

診療におけるAIの活用ー病理診断ー

佐々木 毅（東京大学大学院医学系研究科 次世代病理情報連携学講座 特任教授）

がんの最終診断には多くの場合、病理診断が必要であるが、病理専門医数は全国で約2,500名であり、400床超の急性期706病院にあっても、31.7%で常勤病理医が不在である。また、病理医が常勤で勤務する病院でも、1人病理医病院が約44%を占めるという深刻な人材不足に陥っている。その病理医不足を補うため、AIによる病理診断支援プログラムの開発は注目を集めている。実際に研究段階では様々な研究報告がなされており、実に多数のAIプログラムが存在するものの、診療の現場で活用できる薬事承認を受けたAIプログラムはまだない（2020年2月時点）。日本病理学会ではAMEDの研究支援のもと全国規模のプラットフォームを構築し、病理組織デジタル画像の収集と、病理診断支援AIプログラムの開発を行っている。しかしながら、開発したAIプログラムを複数の施設で使用した際に、正解率にばらつきがあるという問題も発生している。病理診断分野におけるAIの活用と将来像について述べる。

在宅療養者にやさしい便秘アセスメントーAI 技術を取り入れる

真田 弘美（東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 老年看護学/創傷看護学 教授
医学系研究科附属グローバルナーシングリサーチセンター センター長）

看護学の研究は、Society5.0 といわれる時代の要請とともに、療養者のニーズをいち早くとらえて的確に寄りそうために、ロボテックス看護学やイメージング看護学、データサイエンスといった学際的な新しいケアの枠組みを創生することが課題である。いわゆる老年症候群といわれる認知症や寝たきりの療養者の増加とともに、看護のケアの場が急性期病院から、在宅や施設へ移り行く中、症状コントロールは看護の最も大きな責任になっていく。痛みや症状を自ら伝えられない療養者が増え、従来なされてきた療養者の主観的な痛み取り除くという支援方法は、在宅や施設ではすでに限界にきている。

ここでは、在宅療養者に最もニーズのある便秘に絞り、産学連携による機器開発と AI を用いた画像分析、さらに、ユーザーとなる訪問看護師のティーチングプログラムを紹介する。

保険診療におけるロボット手術

瀬戸 泰之（東京大学大学院医学系研究科 消化管外科学 教授）

わが国におけるロボット手術による保険診療は、2012年 K843-4 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術から始まり、続いて2016年 K773-5 腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術（腎部分切除に限る）が承認されており、それまでは、わが国におけるロボット手術はほぼ泌尿器科領域に限定されていたことになる。2018年、他領域12術式が保険収載され、保険診療における本格的なロボット手術の“幕開け”として話題になったことは記憶に新しい。一方、世界的にも、従来ロボット手術は泌尿器科、婦人科領域で主として行われていたが、最近是一般外科領域の件数増加が知られている。わが国でも、2018年以降ロボット手術件数は増加しており、2020年改定で、さらに膣頭十二指腸切除など7術式が承認され、その傾向は今後も続くものと思われる。一方、厳しい施設要件や、高額コスト（従来の内視鏡手術と同じ点数で加算なし）などの問題が残されている。人の手が入らない狭小空間において、精緻かつ安定した手術操作を行えるロボット手術をいかに保険診療で活かしていくか、今後の大きな課題となっている。

役員一覧・事務局情報

一般社団法人 内科系学会社会保険連合

理事長 小林 弘祐
副理事長 伊東 春樹 清水恵一郎 蝶名林直彦 横谷 進 高橋 和久
理事 井田 正博 上村 直実 大西 洋 荻野美恵子 島田 朗
平川 淳一 古川 泰司 待鳥 詔洋 矢富 裕 横手幸太郎
監事 工藤 翔二 清水 達夫

事務局 〒113-8433 東京都文京区本郷 3-28-8 日内会館 日本内科学会内
TEL:03-3813-5991 FAX:03-3818-1558
E-mail : info@naihoren.jp HP : <http://www.naihoren.jp/>



一般社団法人 外科系学会社会保険委員会連合

会長 岩中 督
会長補佐 川瀬 弘一 瀬戸 泰之
理事 河野 匡 清水 伸幸 土田 敬明 西田 博 平泉 裕
松下 隆 山田 芳嗣
監事 竹中 洋 田中 雅夫

事務局 〒105-6108 東京都港区浜松町 2-4-1 世界貿易センタービル 8階 日本外科学会内
TEL:03-3459-1455 FAX:03-3459-1456
E-mail : office@gaihoren.jp HP : <http://www.gaihoren.jp>



事務支局 〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋一丁目1番1号
パレスサイドビル 9階 東コア 毎日学術フォーラム内
TEL:03-6267-4550 FAX:03-6267-4555
E-mail : maf-gaihoren@mynavi.jp HP : <http://www.gaihoren.jp>

一般社団法人 看護系学会等社会保険連合

代表理事 山田 雅子
副代表理事 宇都宮明美
理事 餘目 千史 小林 和世 酒井 郁子 田母神裕美 渡邊千登世
監事 長江 弘子 吉川久美子

事務局 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-8-2 日本看護協会ビル 4階
TEL: 03-3409-1569 FAX: 03-3409-1574
E-mail : info@kanhoren.jp HP : <http://kanhoren.jp/>

